

平成5年(1993年)4月14日(水曜日)

重症筋無力症は難病

なぜか疲れやすい。気候のためかと思えたりするが、それが重症筋無力症であること。これは厚生省による特定疾患治療研究対象の病気で、いわゆる難病のひとつなのだ。

もっとも多い眼筋マヒ 神経と筋肉の接合部に異常

この病気は10歳以下と20歳～30歳に比較的に目立ち、また女性は男性の倍となっている。ただし、40歳以降は男性が多くなる。日本では10万人に3人くらいだ。



重症現象は全体の80%におよぶ

症状でもっとも多いのは眼筋マヒだ。眼球を動かす筋力の働きが不十分となり、まぶたが下がり、眼球が良く動かず、ものが二重に見える(重視現象)する。この眼筋マヒだけの筋無力症は全体の80%にもおよぶ。

ある。内眼筋のマヒだと目と目が大きく開いてしまったり、外眼筋マヒは目と目の距離が狭くなる。正常だが、眼が動かなくなると目も開いておらず、眼も動かないといった具合だ。外眼筋マヒは外方だけが動かず、動眼神経マヒはまぶたが下がったり、上方、内方、下方へ眼が動かさない。

いままし、眼筋マヒについて説明しよう。眼筋にもいろいろあるが、その眼筋によって多少、症状に差がある。共通した症状で一番大きなものが重視現象だ。ともかくものが二重に見えるのだから日常生活にもよぼよぼ

影響は大きい。噛む力が減退したり手足の脱力感筋無力症はこの他にも噛む力が減退したり、ものを飲み込む力が弱かったり、言葉が鼻にかかったり、呼吸困難になったり、手足の脱力感があったりといった症状を伴うことがある。

一般に朝のうちはよいのだが午後から夜にかけて悪化する。そして、急性感染症、心身の疲労、生理・妊娠・分娩などは症状を悪くしてしまふ。

治療だが、これはむずかしい。だからといって、難病に指定されているのだ。軽症のうちには安静によって一時的によくなるが、運動すればすぐ悪化してしまう。

患者の50%は胸腺腫を合併

結核、専門医の指示のもと、薬物療法を行うことになる。

また、患者の50%は胸腺腫(きょうせんとしゅ)を合併している。これは胸腺にできる腫瘍(しゅよう)だ。

だから治療では胸腺を摘出することが必要になる。

一部の患者の予後はよく、完全に治ることもあるが、多くは軽快・悪化の繰り返しだ。

なおこの病気の原因は、神経と筋肉の接合部になんらかの異常があり、脳からの命令が筋肉運動として連絡されないためだ。